



平成21年8月10日
卓話『ガバナー公式訪問にちなんで』
国際ロータリー第2750地区ガバナー
久邇 邦昭 様



会長さんのモットー「エンジョイ・ロータリー・ライフ」というお話でした。

私、会長をしていました時、ある席で、ロータリーは要するに楽しくやりゃいいんだねといったら、それだそれだということで、楽しくやろうよというのが私のモットーになりました。似たようなお考えかと思った次第です。

RIの会長は「水」と「飢餓と保健」、「識字率向上」の3つを言っています。きれいな水のないところにはきれいな水を持っていこうというようなことで大変結構なのですが、もう一つ、それじゃほっといたら十分な水ができるんだろうかということを考えないといけないと思うんです。

それが山に緑をということなんですけど、木は山に降った雨を溜めて少しずつ出すわけですね。そのきれいなおいしい水が川になって海に注げば魚の栄養にもなる。灌漑用水になれば食糧増産にも繋がるんですけど、この山の緑が残念ながらどんどん減っている。ヨーロッパでも産業革命以来どんどん木を切ってしまった。明治以後日本もどんどん木を切っております。私など子供の頃は遊んでくたびれると水道の水をがぶがぶ飲んだですよ。東京の水はおいしい水でした。それが今や水道の水をお飲みになる方はあんまりなくて、たいがいミネラルウォーターです。残念なことではないでしょうか。自然を大事にしなかった結果ですね。また、木の大切な作用はCO₂を吸収して酸素を出すことです。

次の識字率。さっきの3つの中の「識字率向上」。これは日本人にはぴんとこないですね。明治に

日本に来た外人さんは、人力車夫が休んでいる時に新聞読んでたってびっくりしたと書いています。江戸時代の日本は殆んどすべての村に寺子屋があって、神官や坊さん、浪人のお侍が教えていた。明治



の初めに文盲率ゼロに近かった。世界では未だに文盲の人がいなくなったわけではないようですが、日本では「教育」というふうに拡大解釈してはどうかと思います。日本は戦後いろいろの凶悪犯罪、子供の犯罪が毎日のように報道されています。こんなことはかつてなかったと思うんです。どうしてだろうと考えますと、戦後、戦争中の教育に自信が持てなくなって基本的な道徳教育が疎かになり、日本の歴史も殊に明治以後は教えないというような傾向になった。そういう子供が大人になると、自分さえよきやいいということになる。日本は昔から人間は一人で生きることはできない、みんな誰かのお世話になって初めて生きていけるんだということで、お陰さまでということをよく申します。食事が出たら、ごちそうさま、いただきます。誰に言っているのか。神や仏を含めていろんな人、物に対して言っているわけですね。これはロータリーの奉仕の精神と共通した考え方といえるでしょう。

そんなことで、山に緑を、幼子には躰をということ、折に触れて考えるようにしています。